

Rep
ort

身近な自然の観察・記録活動 石神井川緑道版

2021.3.26

一人ひとりの自主活動 だれでも参加できます

活動：月2回(第二木曜日・第四金曜日)10:00より(雨天中止)
コース：帝京大学付属病院北詰・御成橋たもと→金沢橋
問合せ・連絡先：090-8646-9757 木村松夫 com-matchan@hotmail

桜満開、でもちょっと寂しい 今年の石神井川 なぜ？



3/26、今日が桜(ソメイヨシノ)の一番の見ごろだと思って、定例の観察活動を普段より広く呼びかけしたところ、なんと4人もの参加者があり、それはそれは楽しい集まりになりました。

でも、桜はなんとなく寂しい感じなのです。どうしてか？石神井川の桜の良いところは、枝が川の水面に触れんばかり

に低く垂れ下がって咲いているのが壮観だったのに、今年はそれがあまり際立っていないのです。桜の木の本一本を観察してみると、右下の写真のように枝先が枯れてしまっているものが目立ちます。

石神井川緑道が整備されたのは1970年代でもう50年近くになりますが、桜並木もそのころ植栽されたもの。この数年、板橋区は老木の除伐と若木の植栽を行ってきましたが、「これからの管理は大変だよ」と他人事のように言いながらの観察活動でした。



桜を見ないで地面の「雑草」ばかり眺めているグループに集まる関心

ワイワイがやがやと話をしながらの観察・記録活動ですが、複数の観察者が「複眼でものを見る」ことって必要ですね。土日が仕事で不定期休日のAさんは毎回の活動には出てこられないのですが、この2年間、一人で勉強して「今日は80種の花を見つけます！」と張り切って参加、67種の花の名前を言い当てていました。赤塚公園で毎回熱心に積極的に活動しているBさんは自分では「何にもわからない」と言いながら、手に持った植物図鑑を使いこなして、いつの間にか他人に説明ができるようになってきています。6年目にして初観察の**アキニレ**の花はBさんが同定したものの。



そんなわたしたちの動きを、花見のみなさんは変な集団だと思うのでしょうか。「何してるんですか？」と声をかけられます。「ほら、あそこからここまでの50mの範囲で、こんなに野草が咲いているんですよ」と答えたら、今日のお仲間は気が利いている人ばかりで、初めて参加のCさんもDさんもPRの資料などを配ってくれたりしてチームワークが出来上がり。そうすると飛び入りで同行してくれる方も出てきて、「確信をもっていい加減なことを言う」という「定評」のわたしは写真を撮るのも忘れて、いい加減な説明を2時間半、確信をもってしゃべりっぱなしでした。

貴重な野草の広がりも確認



お仲間が指をさしているのは展葉を始めた**キラソウ**（ジゴクノカマノフタ）。昨年、人があまり入り込まない場所で群生しているのを見つけて、板橋区のみどり公園課に「草刈りに注意して」とお願いをしていたところ、地際からでなく高さ20cmぐらいの草刈りにとどめてくれていたのですが、多分、その効果でしょう、緑道の端っこにも新しい株が出てきました。

そうかと思うと、こんなところにこんな花が・・・とうれしくなる花が足元に。**シロバナタンポポ**（右）も生きていました。

次回の石神井川観察は4/8（木）です。10:00 帝京大学病院北側の御成橋たもと出発